

福山駅前デザイン会議

10月11日（水） 14:00～16:00
コワーキングスペースtovio
（エフピコRiM 1階 iti SETOUCHI内）

2023
no.02



Content of the meeting 会議の内容

agenda
01

ふくまちエリアにおける福山駅前広場の役割と
広場空間の管理運営について

報告

福山駅前広場協議会・分科会での議論経過



遺構を生かした空間づくり

- 広場は交通結節機能と福山らしさの表現が必要である。
- 福山城の遺構を生かすためにも全面広場化をめざすべきである。
- 城の中に駅があるという意識に変えていくため、駅舎の南側に遺構を表現する必要がある。
- 文化財は史実に基づく復元が重要。時間をかけて進めていく必要がある。
- 堀の再現は、管理・安全上の観点から、デザインで表現していくのがよい。

福山駅前広場の使い方

- 広場の運営者と共に設計することを前提とした基本計画の検討を進めていく必要がある。
- 一貫した理念による広場運営と設計のための事業者公募プロセスの検討が必要である。
- 広場と周辺の境界を感じさせない作り方や使い方により、交通や人の結節を促進する必要がある。
- 駅前広場は中心部だけでなく周辺地域の情報も発信される場所になるべきである。



レクチャー

駅前広場の可能性と三之丸町地区再開発事業



ー ウォークアブルの推進によるまちづくり ー

- ✓ 公共空間がまちを変えており、ウォークアブルな空間が注目されている。
- ✓ 公共空間を活性化し、人々が集まる場所を作る重要性が強調されている。

ー ギャザリングプレイスの提案 ー

- ✓ 集まった人や地域がつながり、共感し、共創しながら場所や風景をつくりだしていく。

ー 駅前広場とライフスタイルの結びつき ー

- ✓ 広場の活用で、ライフスタイルに影響を与える取組が生まれる可能性がある。

ー 三之丸地区の再生計画 ー

- ✓ 単なるテナントではなく、パートナーとして事業者と連携し、ローカルファーストで福山の新しいスタイルを発信する。

ー 開かれた広場の提案 ー

- ✓ 地元企業・自治会・金融機関・行政などの参画を促しながら、地域のライフスタイル向上、地域経済循環、地域課題の解決につながる広場をめざす。それがエリア価値と福山の未来価値の創出につながる。

意見交換

福山駅前広場の役割と広場の管理運営について



ー 広場の機能 ー

- ✓ 駅はまちの玄関口であり、外部から訪れる人にとってまちの第一印象を形成する重要な場所である。
- ✓ 福山駅は多くの人々が利用し、広場が目的地となる可能性はあるが、広場は公共交通の起点としての機能も持ち合わせていることを忘れてはいけない。

ー 広場の役割 ー

- ✓ 広場は人が集まる場所。駅前広場には情報発信機能が必要である。メディアがあることで、情報発信がメリットとなり、広場での活動が増えてくる。
- ✓ 福山の特産や企業に関する情報を、広場を通じて市民や訪れる人に発信できるような広場活用ができるといい。



（ウラ面へつづく）

— ふくまちエリアへの波及 —



- ✓ 広場に来た人を、どのように、ふくまちエリアや周辺地域へ誘導するかが重要。
- ✓ 中央公園・ばら公園など、周辺の施設と連携し、人がふくまちエリア全体を回遊するストーリーがあれば、人が動き、活性化につながる。
- ✓ 人をまち全体に誘導し、共感力が高まる機会を増やすことで、新しい動きや共創が生まれてくる。
- ✓ 広場からふくまちエリアに人を流すのであれば、沿道を楽しく、エリアを魅力的にしていく取組を繰り返していく必要がある。
- ✓ 沿道の住民が競い合うようなばらの栽培文化を促進し、地域全体が魅力的な場所になってほしい。

— 広場のあり方 —



- ✓ 広場は市民の交流の場だけでなく、広場周辺のパートナーにとっても利用しやすい場所であるべき。利用ルールの整備が重要である。
- ✓ 広場は特別なイベントだけをする場ではなく、日常のハレの場となることが重要である。
- ✓ 広場をコンテンツで埋めると隙間がなくなり、イベントなどが目的でない人は過ごしにくくなる。幅広いターゲットに対応できるよう、隙間空間をどう作っていくかハード面の議論もあるといい。
- ✓ 世界のマーケティングの潮流として広場や通りなどでポップアップを行っている。福山ではばらを広場でどのように表現していくかが重要である。

— 広場の運営 —



- ✓ 公園や広場の運営は収益を得ることが難しいため、日常的に収益が出る仕組みが必要である。
- ✓ 収益事業は広場での教育をベースとしたボランティア活動とメディアによるパブリシティのバランスが大事。広場での教育活動（ボランティア）がメディアに取り上げられることで、人を広場に呼び込み、それが収益につながるような流れを作ることも大事である。
- ✓ 駅前大通りも含め駅前広場が広がることで、まちとの接点が増える。人の流れも考慮しながら接点を増やすストーリーを作り、広場やふくまちエリアのエリアマネジメントへの参画を促していく。
- ✓ 商店街や多くの関係者が全面広場化に興味を持っており、エリアの価値向上による人の流れを期待している。そのような意識のある人との連携で広場の管理運営などを考えていけばいい。
- ✓ 周辺地域の代表的な情報や物産を広場で紹介し、広場を使って地域全体が盛り上がる仕組みを構築することが必要。福山市の周辺地域の住民も利用できるような運営を検討してみてはどうか。
- ✓ 広場に面した商業が広場を活用し、客数を増やすなど収益を上げることで、受益者負担として収益の一部を広場運営に充てるような仕組みをどう作っていくかが大事。そのためには、広場沿道の店などが広場に開いていくことが重要になってくる。



agenda 02 旧福山東警察署駅前交番跡地の活用検討

報告

意見



- 今後の検討の方向性は、福山駅前再編事業の進捗に応じた暫定的な利用、空間の共有や機能の連携など、エリアを一体的に考えていく。
- 県と連携し、まちづくりに資する土地の活用方法を検討していく。

- ✓ UR都市機構では、地元とともに、社会実験の実施など伏見町のまちづくり支援を行っている。交番跡地の活用は駅前や伏見町のまちづくりに資するものと考えている。活用の検討にも協力していきたい。



agenda 03 福山駅周辺の路上喫煙防止対策

報告

意見



- 喫煙者から喫煙場所の問い合わせや既存の喫煙所の利便性に関する意見などがあり、駅周辺の路上喫煙防止対策や分煙環境の整備の拡充として、駅舎への影響を配慮しながら新たに3か所の喫煙所整備を計画している。
- パトロールの強化やルール周知の取組により路上での喫煙を減少させていきたい。

- 路上喫煙者やポイ捨てが減少すれば喫煙所の数を徐々に減少させる方針で、喫煙所は暫定的な設置である。

- ✓ 将来的に喫煙所を撤去するときには、なくなることがネガティブな印象を与えないようにすることも必要。